り返す。放冷した後、過塩素酸0.5mLを加え、白煙が発生するまで加熱する。放冷した後、飽和シュウ酸アンモニウム溶液15mLを加え、再び白煙が発生するまで加熱する。放冷した後、水を加えて約10mLとし、これを試料溶液として装置Ａを用いる方法によりヒ素の試験を行う。このとき、吸収液の色は標準色より濃くてはならない（２μg／ｇ以下）。

乾燥減量　2.0％以下（５ｇ，105℃，４時間）

強熱残分　1.0％以下（１ｇ）

定量法　本品を105℃で４時間乾燥し、その約事0.25ｇを有効数字４桁まで量り、その数値を記録し、水を加えて溶かし、250mLの全量フラスコに入れ、更に水を標線まで加えて250mLとし、試料溶液とする。この試料溶液５μLにつき、次の条件で液体クロマトグラフ法により試験を行う。得られたクロマトグラムからＬ－イソロイシンのピーク面積を測定し、別に求める検量線によりＬ－イソロイシン濃度を求め、含量を算出する。

操作条件

装置：移動相及び発色液送液用の二つのポンプ、試料導入部、カラム、反応槽、検出器及び記録装置からなり、カラム及び反応槽は、恒温に保たれるものを用いる。

検出器：蛍光光度計（励起波長：338nm，蛍光波長：425nm）

カラム：内径4.6㎜、長さ150㎜のステンレス管に粒径３μmの液体クロマトグラフ用オクタデシルシリル化シリカゲルを充填する。

カラム温度：60℃

反応槽（反応コイル）：内径約0.25㎜、長さ約3.0ｍの管

移動相：リン酸二水素カリウム3.4ｇ及び１－オクタンスルホン酸ナトリウム1.62ｇを水に溶かし1000mLとする。この液にメタノール266mLを加えた後、リン酸でpH2.5に調整する。

反応液：水酸化カリウム13.25ｇ、ホウ酸15.00ｇ、ｏ－フタルアルデヒド0.35ｇ、２－メルカプトエタノール１mL、メタノール５mL及び3.5％ポリオキシエチレン(23)ラウリルエーテル1.25mLを水に加えて溶かし1000mLとする。

移動相流量：毎分1.0mL

反応液流量：毎分0.5mL

反応温度：60℃

検量線の作成

定量用Ｌ－イソロイシン約0.25ｇを0.001ｇの桁まで量り、その数値を記録し、水を加えて溶かし、50mLの全量フラスコに入れ、更に水を標線まで加えて50mLとし、標準原液とする（この溶液１mLは、Ｌ－イソロイシン（$C_6H_{13}NO_2$）として５㎎を含有する。）。使用に際して、標準原液の一定量に水を加え、１mL中に0.5㎎、1.0㎎及び1.5㎎を含有するように正確に希釈する。